栩野正喜の勁草塾‥「予定調和」

まず、冒頭にお詫びせねばならないのです。

前号で「人材育成」について持論を書きましたが、
自社のケースにあたるとクレームがありました。

高齢化という大きな課題に対して一般論ではあるのですが
心証を害されたそうです。

大変申し訳なくお詫び申し上げます。

さて、今号は「予定調和」について書きたいと思います。

この言葉は NHK の E テレに「知恵泉」という番組で知りました。

番組の冒頭、御厨貴さんが「予定調和」を発言されて
知らない言葉なのでハッとしたのだった。

「予定調和」とはカンタンに言えば「筋書通り」に進むこと。

つまり、まず「想定」を立てて、その実現の方法を探りながら
一歩々々「事」を推し進めた結果、「想定」に近い形になる
という訳です。

そう言えば、私の過去を振り返ってマクロに見ると
若い時は「コンピュータ」を軸にそれなりの仕事が出来たし
その後「コンサルタント」として曲りなりにもやって来た
と言えるかも知れない。

しかし、マクロに見れば「筋書」の通りかも知れないが
ミクロな点ではいろいろと思い悩むことが多々あったのだ。

これからの余生も自分なりに描いているが、
果たして「筋書通り（予定調和）」となるかと危惧している。

冒頭のお詫びの件も「然り」。

一般論の心算でも「心証を害する」ケースもあるので
慎重にならざるを得ないのだ。

「デジタル・タトゥー」という言葉があるが調べると
「投稿前後に「自分が誰かの記録になってしまう可能性」を
意識した行動が求められています。」
と注意書きしていた。

確かに、物事には「両面性」があるので
「善かれ」と思う事でも
立場が変わると「そうではなくなる」と配慮することがポイント。

つまり、私のような昭和世代のスタンダードと、
現在の Z 世代のスタンダードとは本質的に同じ筈だが、
Z 世代に関わらず、世代の違いで「受け止め方」が
かなり相異があるのも事実のようなので
一方的な「善かれ」の押し付けにならぬように心掛けたいと思います。

【勁草塾のバックログはホームページにあります！】